



発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 安藤 武典
 編集人 中平等 新一
 名古屋市天白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◆ 4月17日(土) 令和3年度愛知県山岳連盟定時総会 (web会議) <http://aichi-sangaku.main.jp/>

赤岳主稜より富士遠望

PHOTO 中平等新一



加盟団体のみなさんに

コロナ禍の下で登山活動の実態を聞く！

昨年からの新型コロナウイルス感染拡大によりあらゆる行事等が中止又は延期となり、今年に入っても一向に収束の兆しが見えません。

登山界に於ても3密をさけるため、山小屋の閉鎖や入山制限等が講じられ、また山岳四団体から基本的な指針が出され、今までと異なる登山スタイルが示されました。

そこで編集部では、加盟団体の皆さんが如何にして登山活動に対処されているか、その実態やご意見を聞いてみました。

【岡崎山岳会】

個人の体力維持を 目的とした登山

新型コロナウイルスの国内初確認から1年が過ぎ、さらなる感染拡大が続く、今や第3波のさなか感染者は40万人に迫る勢いです。

国の緊急事態宣言の継続にあたり、不要不急の外出と県をまたぐ移動の自粛等の要請も継続され、岡崎山岳会は再び活動の一時停止を余儀なくされ、月2回の例会時に行っていたパーティー編成、山行計画承認、山行報告、反省及び問題点の検討が不可となり、山岳会としての山行計画の承認は停止状態です。

現況では、個人の体力維持等を目的とした登山を県内に限り、個人の裁量にて行う事を容認しています。感染対策については、日本山岳・スポ

ーツクライミング協会のガイドラインを指針とし、基本的な、3密を避ける・手洗い・効果的なアルコール消毒・マスクはもちろんですが、多くの人が素手で触る岩場、梯子、鎖場や狭い登山道での擦りかわり等に感染リスクがある事を認識した上で充分な体調管理、林道の閉鎖や登山道の崩落など充分な事前確認を行い、県内登山であっても油断禁物の心構えを周知し活動しています。

振返れば、2020年4月10日の愛知県独自の緊急事態宣言発令時には、山岳会としての登山活動の対応指針を役員間で協議し即、全会員へのメール通知にて対応し、その後の緊急事態宣言解除時には一旦活動を再開、会員は各々感染対策を施し複数人であってもソロテント持参で個食、麓にて個室確保での宿泊や長

期縦走を避ける等、平素とは違う形での登山を選択しました。今は山へのひたむきな思いの中で、感染リスクを念頭に各々トレーニング登山に勤しむ日々です。

(加藤 明美)

【名古屋山岳会】

集会はオンラインで知恵を出しながら解決

コロナウイルスが日本で猛威を振るい始めて一年になろうとしています。

当初はこの感染症の実態がわからず、連日のニュースや報道では私たちが生活していく上での行動の制限について、感染拡大と経済の両面から、様々な議論がかわされてきました。

当山岳会でも、昨年4月の緊急事態宣言発令後に、一時はほぼすべての活動が中止となり、山行はもとより毎週行っていた集会も休止状態となりました。

GW以後、夏にかけて国内での感染状況は一進一退でしたが、集会がオンライン会議でできるようになると会員同士の連絡や、コミュニケーションがとれるようになり、少しずつ皆が山に行くようになり、これは他のスポーツでも言

えますが、「登山の行為自体は感染症の拡大を進めるものではない」ということを感じ始めてきたように思えます。また何より登山に対する欲求が、出来ることへの取り組みを促してきているのではないかと思います。

勿論、目的地までの移動で配慮すべき所や、大人数での合宿・講習会などまだまだ制約を受ける部分がありますが、少しずつ知恵を出しながら解決していけると期待しています。

14日発表されたワクチン承認はうれしいニュースです。今後はワクチンの普及によって、感染拡大が収束し、また以前のように山に活気が戻ってくれば嬉しいですね。

テントで酒を飲みながら鍋をつつき、仲間と談笑。帰りは温泉に入って旨い飯。個人的にはこれが楽しみなので、今年はぜひそうなっていきたいです。

(中川 邦仁)

【豊川山岳会】

接触の少ない近郊の山安全登山を心がける

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により緊急事態宣言が発令され、私達の登山スタイルも変更を余儀なくさ

れ、3密を避けることの難しさを改めて痛感したところで

愛知県山岳連盟主催の「第24回遭難を考える講演会（web会議）」を拝聴し、島田ガイドの対応の話が大変参考になり、山行に参加する者は普段からの感染予防はもとより、体の異変が少しでもあった場合は、仲間に伝え躊躇す



ることなく山行を中止すること、一番大事ではないかと会の中で確認しています。

愛知県では2月7日まで緊急事態宣言が再発令されたため、私達の山岳会では①月2回行っている集会をリモートで行う。②山岳会としての山行は中止。③個人山行については県を超える山行は自粛。

④県内の山行については、各自の判断に任せるが少人数で人との接触が少ない山域（ルート）を選択すること。の4つの対応を図っています。

幸い、東三河は比較的人との接触が少なく歩くことが出来る山が近くにあるため、細心の注意を払い、個人山行を行うことが出来ます。

会員それぞれが山に対して思いがあり、今年の目標もあると思います。会としての山行も色々企画し、盛り上げていくためにも新型コロナウイルス感染拡大の早期縮小が望まれます。

豊川山岳会で受け継がれている「危険は回避し、困難は克服する」の精神を大切に、今後も安全登山を心がけ、皆で山を楽しみたいと思っています。

(河合 芳尚)

【春日井山岳会】

コロナ禍の登山情報共有し活動

会としての山行や行事は行わず、各人の個人山行を中心に、それぞれ目標に向かい活動を行っています。

集会等も緊急事態宣言中は行わず、LINEやメール等で連絡を取り合っており、小屋の利用、クライミングエ

うなぎ錦三丁目 い ば しょう

ら ゐ 昇

〒460-0003 名古屋市中区錦三丁目13番22号
TEL <052> 951-1166 番
営業時間 午前 11:00～午後 2:30
午後 4:00～午後 8:00
定休日 日曜日・第二・第三月曜日

安心して選べる三河地区
のプロショップ
JR刈谷駅前



登山用品豊富!

穂高

〒448-0825
刈谷市神明町6-408
TEL 0566 (23) 8611
定休日/火曜日
営業時間/10:00～20:00

リアの立入りなど各自治体の条例に従い、会の中やSNSなど情報を共有し、活動の判断としています。

制限の多い中で活動はやはり限界があるので、一日でも早い収束のために行動し、山に情熱を注いでいけたらと思っています。

(吉田 晃)

【豊橋山岳会】

コロナ禍で 地元の山再発見！

コロナ禍において、人によって考え方は温度差もあり十人十色。山に行きたくても、その人のおかれた状況から、我慢せざるをえない人もいる。一方で、コロナなんて関係ないとかばかり、行きたい山に行く人も。どの人の行動が正しくて、間違っているという事は一概には言えないが、心だけはコロナに感染せず、お互いに気遣いは忘れないうようにしたいものである。

登山とは、そもそも自然相手である。自然界の中では人間の存在とはちっぽけなものである。国内の山であったとしても、厳冬の3000m峰、吹雪の中で、欲望の赴くままに行動するのは猛者かもしれないが、決して勇者とはいえない。制限のある中で、

自然が送り出してくれるメッセージに敏感に感じ取り、いくつもある選択肢の中でメンバー全員にとって、ベストな方法を選ぶことができるこそが勇者であり賢者ではなからうか。

私がコロナ禍になったからこそ気付けたこと。週行記録がほとんどないナメの美しい奥三河の赤木沢を山岳会のメンバーと見つけて感動したり、鳳来の岩場へ平日に足を運んだり、全部同じ枯れ木にしか見えなかった落葉した木の冬芽の違いがわかるようになった。アニマルトラックングを見ては、その動物の行動を想像したり……と自然って凄い！生態系って凄い！と里山の素晴らしさ、地元、愛知の山の再発見ができて、何よりも視野を広げることができた。

また、山岳会においても、会長の機転により、ひとりテントにて感染予防することにより冬山合宿も実現することができた。

コロナ禍の制約においても、常により良い方法を考え実行し、楽しみを見つけて出すこと。登山のおもしろさって、こういうところにあるのかもしれない。

(この項、次頁へ続く)
(浦川 陽子)

印象に残った私の登山

29

障害者を背負い ボランテア登山！

常任理事 谷澤 昌夫

長年登山をやっている者として、その時々で印象に残る山があり、登山を始めてから現在までの記憶に残った山行を少し書いてみました。

まず、私と登山の出会いには友人からの誘いで、始めは夏に北ア・南アを時々登る程度でした。そして3年目の夏に『北鎌尾根』に誘われました。

当時、私は岩登りの経験もなく、当然登攀具も持っていないで、新田次郎の『孤高の人』を読んで登って見たいと言う気持ちがあったのか、今までの山より厳しそうな思いましたが、行くことにしました。そして独標を過ぎた辺りで、浮石に乗ってしまい千丈沢側に滑落したのです。その後、手足で必死に制動を掛け、九死に一生を得ましたが、今でも縦走路に這い上がった時の安堵感忘れません。

次は、山岳部に入り新人として初めて参加した冬山合宿で、西穂独標でビバーク訓練を行い、翌朝独標から見た眩いばかりの御来光とモルゲン

ロートに染まる穂高は、今でも目に焼き付いています。

それから、2007年から始めた重度の障害者を背負って登るボランテア登山も印象に残る登山だ。障害者家族の皆さんが喜ぶ姿を見て、彼らにとって登山は、特別なもので、いつでも登れるものではなく、今まで登山ができる事を当たり前と思っていた自分、本当は、家族や周囲の人々の理解があつて登らせて頂いているのだと言う事を気付かせてくれた。

最後に、昨年来、コロナ感染と言う予想外の事態で、登山活動にも制限がかかっていますが、元々自然相手の登山は予想外の事態が発生し、それをいかに乗り越えるかを考えるのも一つの楽しみだと思っています。そこで、今までは少し違った登山、例えば近郊の里山や、同じ山でもルートを変えたり、季節を変えたりするだけでも新たな発見や新鮮な喜びがあります。またコロナ収束後に登りたい山の地図を見たり、あれこれルートを考えたり等々、考えればコロナ禍でもやれる事はあると思います。

(トヨタ自動車山岳部OB)



モンタニア

住所 愛知県豊橋市萱町5番地

☎ 0532-55-0125 <http://www.montania.jp>

～店舗が移転しました～

山用品の専門店

駅前アルスス

〒460-0011

名古屋市中区大須4-1-9 (菱水ビル1F)

地下鉄・矢場町駅 徒歩8分

TEL 052-446-6511

【やまびこ山想会】

緊急事態宣言下の
登山の在り方告知

昨年は3月から5月まで、コロナウイルス感染拡大の影響で会の行事はすべて中止し、その後は山岳四団体の指針に基づいてやって来ました。

現在は、コロナ禍の下での登山について、会報によって、会員に以下のように告知しております。

「今冬は、年末年始にかけ、北陸や東北の日本海側に豪雪をもたらしました。皮肉なことにスキー場にとつては絶好のシーズンとなるところ、余りの大雪とコロナ禍で人出が少なく閑散としていたようです。」

また、報道によると年末年始の山岳遭難事故は記録的な大雪で登山者が少なかつたこともあり、過去5年で最小の23件だったようです。

1月17日に愛知など7府県で再び緊急事態宣言が発出されました。ただ、昨年のような厳しい規制とは異なり、公共の場所の使用も禁止ではなく、時間制限となり、またスポーツも無観客ながら実施されています。

当会では他県への登山の自粛、公共の交通機関は使用せず、自家用車も密を避けるた

め少数の乗車、大人数の山行はグループ分けをする。そして、下山後の反省会も止めることにしております。

ただ、登山は密集を避けられるスポーツといわれています。長い自粛生活で体力や意欲の減退を補うためにも、しっかりとルールを守って続けていきたいものです。」

(宮森 千治)

【岩倉山岳会】

山行活動を控え
感染防止対策万全に

岩倉山岳会では「緊急事態宣言発令に伴う山行自粛について」というルールについて役員会で協議し、会長名でホームページに示し、会員はそれにしたがって活動していただきます。以下、その内容です。

・愛知県の緊急事態宣言が解除されるまで山岳会の例会山行（1年を2期に分けて）を調整し、会員に示した山行計画（はすべて中止とする）。

・個人山行（会員各自が自由に計画し実施する山行）であっても、宿泊を伴う山行は中止とする。ソロテン、個人の車中泊は除く。

・行き先や距離は問わないが、車中の感染リスクが高い

いので、大人数は避ける。移動先のコンビニやPAなど営業施設の利用は避け、人との接触を減らす。

・無届登山は厳禁。確実に会議室（ホームページ上の会員専用書き込みサイト）にアップすること。

・総合体育センター（本会の例会会場）が使用できないので、当面の例会は中止とする。

以上、感染防止対策を万全にし、自らもうつらない、うつさない行動に努めて下さ



冬山登山報告

～冬季アイスアルパイン～
甲斐駒ヶ岳・黄蓮谷右保

＝豊橋山岳会＝

・1月1日～4日(日)

・メンバー 岩本、木村、鈴木(大)

▲12月31日 当初予定のメンバーは都合がつかず一人で行くことにする。11時自宅を出る。夕方最寄りの町で買い物して駐車場に着いた時、南ア

い。以上のようなルールを定め現在に至っている。現在のところ、近場の山に出かけた個人山行の報告はいくつかあるが、会員の多くは山行活動を控えているのが実態です。緊急事態宣言が延長され、引き続きこの状態で本会の活動は推移することになります。2月10日に本会理事会があり、そこで来年度の活動方針並びに当面の活動のあり方について話し合うことになりました。

(片田 保彦)

縦走を終えたメンバー2人から連絡があり、自分の予定より1日遅れで黄蓮に来るといので、予定を1日ずらし一緒に行動することにした。

▲1月1日 6時まだ暗い歩き出す。ソロ登攀の予定なので24kg背負って黒戸尾根を上る。11時30分、5合目テント場に着いた。天気は曇り風速12～13m、テントを立てるのに時間かかる。

取り付き地点の坊主の滝に偵察に行くが、吉か凶かトレースがしつかりついているので10分ほど歩いてテントに戻る。この辺りで雪が積もっていることは、本来、氷の回廊である黄蓮谷が雪の坂道になっている可能性が高い。

～ アジア最大のスポーツの祭典 ～

第20回 アジア競技大会

(2026/愛知・名古屋)

日時 2026.9.19(土)～10.4(日)
会場 瑞穂公園陸上競技場 他
主催 アジア・オリンピック評議会

建設業許可を取りたい、日本国籍を取得したい(帰化)、遺言を公正証書で作成したい、戸籍謄本や除籍謄本を代行取得して欲しい、任意成年後見の相談をしたい、会計記帳を頼みたい等々

ご相談は行政書士の西山秀夫へ

〒460-0002 名古屋市中区丸の内3丁目21番21号
(地下鉄・久屋大通駅から徒歩2分) 丸の内東桜ビル1004号室

TEL: 090-4857-9130

URL: <http://www.nygs-office.com/>

▲1月2日 後発隊2人が上がって来るのは本日夕刻なので、時間を持て余しに甲斐駒ヶ岳ピークハントで1日終える。

夕刻ライトをつけながら2人が上がってきた。打合わせをして明日の登攀に備える。

▲1月3日 5時坊主の滝へ向かってトレース頼りに谷を降りていく。60分程で谷底に着く。トレースが2つに分かれているが、無事にスタート地点の坊主の滝に着いた。滝はバッチリ氷結しており、懸命に雪も着いてない。

坊主の滝は2P 60mぐらいか傾斜はそれ程なくフリーで登る。後発の2人もロープ使って登ってくる。滝を超えてしばらく歩くと左俣、右俣の分岐の二股である。左俣は行程は短い傾斜の強い滝が連続して出てくる。この左俣も登っておくべきルートの一つと思う。

右俣は距離は長い、全体的に緩傾斜で楽しめるルートになっている。今回は右俣へ進む、少し歩くと奥千丈の滝3段200m、この辺りから水の回廊から徐々に雪の坂道に変ってきたが、3人ともアックス使い快適に登っていく。少し行くと瀑流帯が出てきた雪が乗ってなければ綺麗な回廊になっていると思う。

標高も高くなり風が出てきて、この辺りからアイスを楽しむより時間を気にしはじめ。歩くと最後の滝のインゼルに着く。1P 50m階段状の緩傾斜に見える。フリーでトライしてみるが跳ね返されるのでロープを使い乗り越える。3人登り終えてこのまま谷を詰めて尾根に出て、頂上直登は無理と判断し、ここからは見えないが遙か左上にある登山道へ向かい、ラッセル混じりで歩きだす。

日が落ちてきて薄暗くなつて、騙され尾根に何度か騙さ

厳冬の冬山体験

西穂高岳・奥穂高岳

Ⅱ 名古屋山岳会 Ⅱ

・12月26日(土)・29日(火)
・メンバー 近藤(記録)
・メンバー 奥田

▲12月26日 霧及び風雪

前日から駐車場で車中泊しまずは天気予報を確認。29日までは行動できそうな天気であることを確認し、新穂高ロープウェイに乗って西穂高口へ。目の前には前日からの降雪により、トレースが消えた雪面が広がっており、いきなりのラッセル。西穂山荘には1時間30分かかって到着。西穂山荘に抜けると、風雪

れ、落胆しつつやつの思いで登山道のトレースを見た時は狂喜乱舞の思いでした。時間は17時、数瞬、尾根上で一服したあとは登山道をテントまで下るだけ。テントに戻り今日一日の行楽を思い出しながらシユラフに入る。

▲1月4日 本日は降りだけ

なので、下山は少し遅めの9時、駐車場に着いたのが13時この黒戸尾根は何度か歩いているがやはり長い。3人で風呂に入り、帰路は各自の車で帰る。

が吹き荒んでいる。この日の予報は風速22〜24m。

初日から気乗りしない天気、一瞬進むことにためらいを覚えたが、気合を入れ直して丸山方面へ。ワカンをつけている最中、山荘の人が旗を片手に丸山まで猛ラッセルで進んでいく。

視界が悪く、風が強いためいまいちペースが上がらない。チャンピオンピーク手前がいい感じの斜面があり、時刻も15時であったため、この日の行動は切り上げ設営を開始。

天気予報を見て、29日までは天気を持つことを再度確認し、この時点で29日までの行動計画を練り直し、就寝。

▲12月27日 霧及び風雪後晴れ、4時50分出発。稜線に上がると、相変らず風雪が吹き荒ぶ。今日の予報は18〜20m、6時以降晴れの予報。時間が経てば視界が明瞭になることを信じて行動開始。西穂高岳山頂に行くまでに2張のテントを見かける。

西穂高岳山頂に到着し、遂にこの縦走の本番が始まると実感して、気合を再度入れ直し進む。西穂高岳直下の下りは、東側斜面の雪は降り積もっているが、いまいちな結合であり、視界も悪かったため懸垂で処理。西側斜面以外の雪は、降り積もっているわりに根雪となっていないものが多く、登り下りに苦しむ。

赤岩岳あたりから晴れ始めて、風は相変わらずだが視界は明瞭になり、意気揚々と進む。間ノ岳に到着した頃、ふと振り返ると西穂高岳へ向かって引き返すパーティーを見かける。おそらく昨日会った人たちだろう。安全圏に戻る事ができることに少し羨ましさを感じる。同時に、この稜線が自分たちの貸切になったことに心地よさを感じる。

天狗のコルに13時50分着。ジャンダルムまではまだ時間がかかりそうであったため、さっさと行動を切り上げる。

天狗のコルからは明神岳が

綺麗に見え、テントを設営し食事をして就寝。

▲12月28日 霧及び風雪

本日の予報は風速15〜16m 6時以降晴れる予報であったため、穂高岳山荘までの到着時間を余裕をみて13時頃に設定し、5時30分出発。が結局奥穂高岳まで晴れることはなく、ずっと風雪に晒されることになる。この山行中一番風は弱かったはずだが、一番寒く辛かった。

出発直後は夜明け前ということもあり、ルートがわかりにくかったため、方向と夏道の感じを考えながら進む。

しかし、途中から稜線沿いにずっと進んでおり、何かおかしいと思い、明るくなった頃、飛驒側に目を向けると、やはりルートがずれていたため、懸垂してルート修正。これを機に慎重に進み始めたが一回で突っ込みすぎたため、ジャンダルムまで大幅に時間をかけてしまう。ジャンダルムはトラバースできそうなのでトラバースするが雪の付きが悪く緊張させられる。少し悪いクライムダウンをこなし、ロバの耳へ。11月に偵察していたので、懸垂点を掘り起こし、2回の懸垂をスムーズにこなし馬の背へ。

馬の背は直登して通過、奥穂

常任理事会

▼2月2日(火) web会議

〔出席者〕安藤会長、北村理事、岩瀬副理事長、伊藤孝、高木、中川、木田(陽)、倉、谷澤、中田、多田、相山、星各常任理事、今泉

I 報告事項

1. 東海四県正副会長・理事長会議(web開催) 1/9
2. 指導員集会(1/9中止)
3. 日山協・SC審判員・ルートセッター更新研修会(1/16愛知県教育会館)中止

・ボルダリング・ジャンパングで男子の藤井快(愛知)優勝、女子は石井未来6位、倉菜々子9位(以上愛知)

II 審議・お知らせ事項

1. 登山勉強会(2/9web)
2. 山岳共済保険について(講師・瀬田氏)各団体の理事へ事務局からメール配信

高に着き達成感を噛み締めるが、相変らず風雪が吹き荒んでいるので、少し写真を撮って通過。穂高岳山荘へ下る途中、穂高岳山荘の冬季小屋は埋もれていなかったため、山荘へ逃げ込むように入る。外が地獄なら中はまさに天国。荷物を片付け始めると、奥田さんは荷物を片付けるのも億劫という感じであり「満身創痍」を体現していた。

この夜は小屋のありがたさを噛み締め就寝。
▲12月29日 晴れ
この日の予報は風速20m。5時20分出発、風は強いが雪は舞っておらず、月明かりのなか行動開始。
涸沢岳から蒲田富士、白出沢合へ快調に下り、12時10分新穂高温泉に無事帰着した。今日はこの山行中一番天気がよく、下山までずっと快晴で、悲喜交々の心境であった。

2. 自然保護委員会総会(2/16書面審議)
3. 冬山研修会・講習会(2/27/28)中止
4. 愛知山岳マラソン大会(3/6猿投山)中止
5. ブロック別研修会・総合研修(3/13/14静岡)
6. SC審判・ルートセッター更新特別措置(審判員・ルートセッターの3年度の登録更新については、特別措置として研修会参加義務を免除)
7. 来年度の国体予選会などに関する指針(第76回国民体育大会(三重県)の予選会を開催できない場合の対応方針が通達された。予選会(都道府県大会及びブロック大会)の開催可否がガイドライン等に基づき各主催団体が判断する。
8. 新しいSC施設の建設情報(ゲストの伊藤孝雄氏から新しいSC施設に関する

審判員・ルートセッター及び公認スポーツ指導者資格の登録更新について(通知)

1. 審判員・ルートセッター登録更新の特例措置
昨今の新型コロナウイルスの感染拡大状況に鑑み、審判員の登録更新については、本年度に限り、「スポーツクライミング競技審判員規程」第4条の義務研修会参加義務を免除して同規程第7条の登録更新ができることとします。尚、既に2020年度内に義務研修会を受講した方については、同規程第4条にかかわらず、その受講をもつて2022年度の登録更新ができることとします。また、右記特例措置により義務研修を受けなかった方は、県単位で事務局に連絡してください。ルートセッターについても同様の扱いとします。
9. 報告があった(総会の準備(行事方法など検討))
10. 来年度会費徴収について
11. 来年度の行事・運営について
12. 愛知県山岳連盟行事変更
13. その他
・安藤会長あいさつ(来年度の活動に向けて、有意義な意見をたくさん出していただき感謝します。)

《日山協山岳共済会・山岳保険のご案内》

「登山コース」とは

- 傷害事故による死亡・後遺障害・入通院・手術(注1)に加え、遭難捜索費用(注2)がセットされているコースです(入通院・手術はセットありのタイプ、セットなしのタイプがあります。)

(注1) 死亡・後遺障害・入通院・手術については、日本国内外を問わず、標高6000m以上の高い山の登山での事故以外であればお支払いすることができます。

(注2) 遭難捜索費用(遭難時の費用)については、日本国内登山のみが対象*となります。疾病が原因の遭難の場合でもお支払対象となります。

*海外において登山を行われる方は、加入していただく保険が異なります。詳しくは日山協山岳共済会山岳共済事務センターにお問い合わせください。

- ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使用する登山中(フリークライミングを含むロッククライミング、冬山登山等を含みます。の傷害事故を補償し、日本国内において遭難した場合の支出費用をお支払いします(加入タイプによって限度額が異なります。)。もちろん、前記の登山用具を用いない登山(ハイキング等)中や日常生活での傷害事故もお支払対象となります。

- 日常生活上の事故による賠償責任補償付

申込条件

- この保険のお申込人(=加入者)となれる方は「日山協山岳共済会会員」(以下、「会員」とします。)のみとなります。
・ハイキングコース・スポーツクライミングコース
 - 会員は、毎年、会費が必要です。
・トレランコースは別冊に掲載されています。
- ※詳しくは、別途配布されております「山岳共済会のしおり」をご確認ください。

前年度口座振替でご加入の方は、お申し出がない限り自動継続されます。